

平成26年度白石市まちづくり交付金事業実績

平成26年度に採択された白石市まちづくり交付金12件の事業実績について報告します。

□鷹巣第5公園緑化植栽事業（鷹巣自治会）

地域のコミュニケーションの場を創出し、活性化を図るとともに、第5次白石市総合計画白石地区まちづくり宣言の実現に向けて、市の「花と緑のまちづくり」事業に賛同し、鷹巣第5公園の緑化事業に取り組みました。



▲6月の植栽活動の様子



▲10月の植栽活動の様子



▲植栽後の公園の様子



▲たくさんの方から『きれいになった！！』と喜ばれている公園

□沢端川周辺環境美化整備事業（沢端川の環境を守り鯉を育てる会）

環境美化および観光振興に寄与するため、多くの観光客が訪れる白石城や武家屋敷への散策路となっている沢端川周辺の環境整備を行い、植栽剪定および環境美化啓発の看板を設置しました。観光客の回遊ルートとしてさらに価値が高まり、観光シーズンには多くの観光客が訪れました。



▲サツキの剪定と雑草刈払いを行い、きれいに整備された市道調練場北線歩道



▲環境美化啓発看板を設置

□越河地区内名所旧跡案内看板「越河地区宝ものまっぷ」作成事業（越河地域振興会）

越河地区内のPRや来訪者などへの利便に供するため、地区内の名所旧跡、屋号を持つ家を書き入れた案内板を越河公民館前に設置しました。



▲越河公民館前に案内看板を設置



【案内看板設置（越河公民館）位置図】

□旧奥州街道桜並木整備事業（斎川まちづくり協議会）

環境美化と斎川地区民の活性化を図るため、桜が咲く時期には、地区の内外を問わずに人気の田村神社周辺の桜並木の剪定と伐採を行いました。



▲大雪により折れた枝や、てんぐ巣病にかかった枝等を伐採、剪定



▲伐採により、きれいに桜が開花

□天然記念物 逆さケヤキ歩道の整備事業（大平公民館運営会議）

地区民の誇りである逆さケヤキを、地区民に周知し、再認識してもらい、実際に足を運び雄大な姿を見てもらうために、約1キロの遊歩道の補修や手すりを設置し、安全対策を行いました。（広報しろいし H27年1月号にも掲載されています）



▲足場の悪い約1キロの遊歩道を均し、特に危険な3箇所に手すりを設置



▲平成17年5月10日に宮城県指定天然記念物に指定された逆さケヤキ

□太鼓伝承事業（大鷹沢子ども太鼓の会）

伝統事業である太鼓演奏を、子どもを中心に伝承していくために、不足していた締太鼓等を購入しました。日々の練習成果を、市等の様々なイベントで披露し、地域活性化の一助も担いました。



▲第7回鬼小十郎まつりでの演奏の様子



▲白石市農業祭での演奏の様子

□奥州白石噺プロジェクト Part2（大鷹沢一区孝子会）

大鷹沢一区孝子会は奥州白石噺*の舞台である八枚田・孝子堂周辺の景観を維持し、文化を伝承し、観光の発展と振興のために、この周辺の環境整備や八枚田での米の作付けを行っています。今年度は、まちづくり交付金を利用し、八枚田での米の作付けで一番の問題だった水田の水抜け対策のために、遮水シートを使った改修工事を行いました。ここで収穫されたもち米の一部は、大鷹沢芸能文化祭で餅にして来場者に提供しています。また、市内観光名所の一つとして多くの方に知ってもらいたいとの願いから、観光パンフレット『奥州白石噺～ゆかりの地をめぐる～』を5千部作成し、市内観光案内所など主要な観光施設で配布し、大変好評を得ています。

※白石噺とは・・・

寛永13年の夏、現在の大鷹沢「八枚田」で父与太郎と娘まち、妹そのの3人が田の草取りしていた時、片倉家剣術指南役志賀団七が通りかかり、運悪く泥がかかってしまった。父が何度もひれ伏し謝ったが勘弁ならぬと手打ちにされた。娘たちは父の無念を晴らそうと江戸に渡り、由井正雪のもと姉は宮城野、妹は信夫と名付けられ、表向きは女中見習いとして、姉に鎖鎌、妹に長刀を修めさせた。姉妹は見事仇討ちを果たした。その後2人は鎌倉の尼寺に出家したという話。浄瑠璃や歌舞伎で『碁太平記白石噺』として脚色され大衆に広まっている。



▲遮水シートを使い改修工事をした田の様子



▲観光パンフレット『奥州白石噺～ゆかりの地をめぐる～』



【八枚田位置図】

□白川地区防災・防火活動ユニホーム整備事業（消防団白川分団世話係会）

地区内の防災・防火意識の高揚を図るとともに、世話人係の身分を明確にし、非常時には罹災者等の支援をスムーズに行えるよう、消防団白川分団世話係会のユニホームを整備しました。



▲整備したユニホーム



▲整備したユニホームを着用して活動する消防団白川分団の皆さん

□白石薬師堂ホタルの里を継承する事業（白石薬師堂ホタルの里を守る会）

ホタルが舞う清らかな自然環境を作り次の世代へ引き継いでいくために、ホタルの再生に実績のある専門の講師を招き、ホタルの生育環境調査を行いながら成虫を増やす取り組みを行いました。また、観察通路の整備も行いました。さらに、ホタル祭りでは、多くの来場者に自然環境保護の大切さを訴えるとともに、一層の地域振興が図られました。



▲現地での勉強会の様子



▲整備した観察通路



▲ホタル祭りの様子



▲ホタル祭りのアトラクションを楽しむ大勢の参加者

□深谷地区夏まつり大会（深谷夏まつり実行委員会）

以前までは深谷の一部の地区のみで開催だった夏まつりを、地区民全員が参加できる夏まつりにして 2 回目の実施となりました。地域の人たちの連携と協力により、当日は老若男女問わず多くの方の笑顔があふれ楽しいひとときとなり、こどもたちの楽しい思い出づくりと、地区民同士のさらなる交流により、地区内の活性化が図られました。



▲毎年子どもたちに人気の金魚すくい



▲アトラクションを楽しむ子どもたち



▲盆踊りを楽しむ参加者

□三住出雲神社入口ミニ公園化事業（三住自治会）

平成 25 年度に三住の歴史や生活等を後世へ語り継ぐため案内板を設置しました。その周辺は高低差があるため、コンクリート擬木の柵を巡らし安全確保をして、新たな地域コミュニティの場となるミニ公園を作りました。これにより、地域コミュニティのさらなる活性化を図りました。



▲案内板周辺に擬木柵を設置



【三住出雲神社入口ミニ公園位置図】

□検断屋敷まつり（小原地区活性化推進協議会）

地域資源の材木岩公園と検断屋敷を活用した「検断屋敷まつり」を実施し、交流人口の拡大が図られました。このことで、小原の自然景観や地場産品のPRにもつながり、地区住民に意識改革がおり地域活性化につながっています。



▲春の検断屋敷まつりのカラーコーン輪投げ



▲秋の検断屋敷まつりのだるま落としゲーム



▲冬の検断屋敷まつりのだんご刺し用の団子作り